

コメント(新たな始まり)

(学校新聞「玲瓏」校長挨拶より)

父にとっては、私もまだまだ子どもらしく、良くアドバイスをくれる。最近の内容は、豊富な人生経験というよりも単に年のなせる業といったものが多い。これまでの教えの中でのベストは、「一番美味しいものから食べよ」だ。それまでこれと類するようなことは聞いたことがなく、随分と怪訝に思ったものだ。私の食事を見てのことだったらしい。私は美味しいものは最後に食べる主義だった。従って、まずいものから順番に食べては、美味しそうな顔ひとつせず、作ってくれた人に感謝するそぶりも一切なく、およそ苦行のように食べていた。それはあまりに失礼だろうと考えた父が私に話したのである。

「いいか、一番美味しいものを食べてそれがなくなる。すると今まで二番目だった美味しいものが一番美味しいものに昇格する。それもなくなれば、今度は三番目に美味しいのが一番に昇格。結局、いつも一番美味しいものを食べていることになる。こんな幸せなことはないぞ。それがどうだ。一番まずいものから食べてると最後までいつも一番まずいもの食べていることになり、不幸だぞ。」

この考え方に至極同感、以来、それまでの考え方、生き方が大きく変わった。世の中には、思いもよらない考え方があるものだと感心した。「ものの見方、考え方に注意深くあれ、困ったら視点を変えてみよ」が、私のモットーに加わり、自分と異なる意見にも素直に耳を傾けることができるようになった。

ありがたい父の話だったが、父がこの考え方に至ったのは、実は全く別の理由である。真相は単なる生存競争、うかうかしていると兄弟姉妹に食べられちゃうから、真っ先に好きなものから食べたのだと後で分かった。それでは恥ずかしいし、指導にならないのもっともらしい理由を考ていたらしく、それを私は聞かされたのである。

いつからか、卒業式は物事の終わりではなく、始まりになった。高校は人生の通過点に過ぎず、ましてや私たちの学びに終わりはない。卒業は、次のステップの学びはじめてあり、新たな出発点なのである。世の中にはいろんな人がいる。考え方も色々。だから面白い。常に自分で正しい判断をするために、これからもずっと学び続けてほしい。そして、人生を大いに楽しんでもらいたい。

(完)